

'Englishness' との出会い

著者	渋谷 綾子
雑誌名	阡陵 : 関西大学博物館彙報
巻	52
ページ	12-13
発行年	2006-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00023991

‘Englishness’ との出会い

渋谷綾子

あなたはイギリスという国にどんな印象を抱いているだろうか。そして、あなたの感じる「イギリスらしさ (Englishness)」とは何だろうか。

私にとってイギリスは「第二の祖国 (Second homeland)」である。この思いはおそらく、私がイギリスへ大学院留学し、留学期間中に非常に多くの個性豊かな人びとと出会ったことによるだろう。では、私が感じる「イギリスらしさ」とは何か。今回お話しするのは、私が「非常にイギリス的だ」と感じる町と、私にとっての「イギリスらしさ」である。

私は2003年8月から2004年9月末までの間、イギリスの北西部ウェストヨークシャー州ブラッドフォード市にあるブラッドフォード大学考古科学部に大学院留学していた。留学が終わりに近づいた2004年9月22日、私はイギリス東部ノーフォーク州ノーリッチ市を訪れた。ノーリッチ市はロンドンから車で3時間、直通の電車で2時間弱の距離にあり、ブラッドフォードからは電車で約4時間かかる。

ノーフォーク州はイギリスの美しい牧歌的風景が広がる地域で、ロンドンから電車で向かうと、サフォーク州を過ぎたあたりから羊が草を食み、古い教会の塔が緑の丘陵に点在する、まさしく19世紀の英国風景画に描かれたような景色を満喫できる。私が訪れた日は小雨そほ降る肌寒い天候の日であったが、車窓には緑の丘陵

と数匹の羊、石造りの教会の廃墟、そして灰色にくすんだ空という風景が映し出されていた。

ノーリッチの町に着くとすぐに、私はセインズベリー日本藝術研究所へ向かった。ここノーリッチでは町中で日本研究が熱心に行われており、その主導的立場にあるのが1998年に設立されたこの研究所である。

セインズベリー日本藝術研究所で、私は副所長サイモン・ケイナー先生にお会いした。彼は日本の先史考古学を専門としており、日本の縄文時代に深い関心を持つ研究者である。実は、私のノーリッチ訪問の目的は、ケイナー先生と帰国後の研究について相談することにあつた。

ケイナー先生は日本が世界有数の考古学研究国であるにもかかわらず、海外ではあまり知られていない現状をお話され、今後私がどのように日本で研究を進めていくべきかを助言してくださった。先生のご案内で研究所内を見学した後、近隣のノーリッチ城博物館 (Norwich Castle Museum) に話が及び、ブラッドフォードに戻る前にここを見学して町の観光をするようにと強く勧められた。こうして、私はノーリッチ城博物館を訪れることとなった。

町の小高い場所に位置するノーリッチ城は900年前ノルマン人によって建設され、14世紀には監獄としても使用されていた。博物館となったのは1894年であり、現在に至るまでノーリッチ城の各時代の品々を展示している。美術、



写真1 クラスメート達との昼食会 (左端が私)



写真2 Norwich Castle Museum

考古学、自然史の展示資料にはイギリス史を考
える上で重要なものが含まれており、さらに、
17世紀から20世紀にかけての絵画やティーポッ
トのコレクションは訪れた人びとの目を楽しま
せてくれる。

ノーリッチ城の玄関口を入り、石造彫刻を横
手に進むと、城が建設された900年前にタイム
スリップする。コンピュータの映像を見ること
でノルマン人たちの生活を追体験するのであ
る。特に、ヘンリー1世と側近たちが1121年に
ノーリッチでクリスマスを過ごした場景を示
した「crown-wearing feast」は圧巻である。

ところが、城が監獄となった14世紀のギャラ
リーに入ると、場の雰囲気は一変する。鉄格子
の檻と囚人達の生活風景を展示しているため
である。ここでは、囚人達の落書きも目にするた
め、監獄のもつ重苦しい雰囲気を味わうだけ
でなく、囚人たちの生活ぶりや彼らの感情まで
も否応なく想像することになる。

はじめと暗い監獄ギャラリーの階段をさら
に下りると城の地下部にたどり着く。ここでは、
城がどのように建設されていったのか、その建
設過程を示すモデルが展示されている。

ノーリッチ城はまた、アングロ・サクソンと
バイキング時代の貴重なコレクションを所蔵す
ることでも知られている。主に考古学調査で発
掘された遺物が展示されており、経済や政治な
ど1000年前当時の社会構造が学べる。

その他、博物館はさまざまな展示場に分か
れており、ノーリッチの町の歴史と文化を知る
には最良の場所であった。



写真3 Norwich Castle Museum から見た風景

博物館を見学した後は雨がすっかり上がっ
たので、ノーリッチの町を散策した。市内は
中世の建造物が点在する中で、教会とともにパ
ブが混在しており、その存在感は際立っている。

歴史的な建造物に囲まれた中に現代の娯楽の
場であるパブが混在する町並み。実は私の住ん
だブラッドフォードでもよく似た町並みが郊外
で広がっており、他の町でも見られた。人々は
歴史を肌で感じつつ、ビールを楽しむ。これこ
そが私にとっての「イギリスらしさ」である。

しかしながら、ここノーリッチは他の町以上
にこの情景が目につき、町全体がイギリスの中
世史を語りかけているように感じられた。

もしイギリスを訪れる機会があれば、ぜひノ
ーリッチへ出かけて私の感じた「昔ながらのイ
ギリス」を存分に味わってください。

Norwich Castle Museum (ノーリッチ城博物館)

Castle Meadow, Norwich, Norfolk NR1 3JU

電話：+44-1603-493625 (案内)

開館時間：月～金：10:00-16:30、

土：10:00-17:00、日：13:00-17:00

Sainsbury Institute for the Study of Japanese
Arts and Cultures (セインズベリー日本藝術
研究所)

<http://www.sainsbury-institute.org/> (英文)

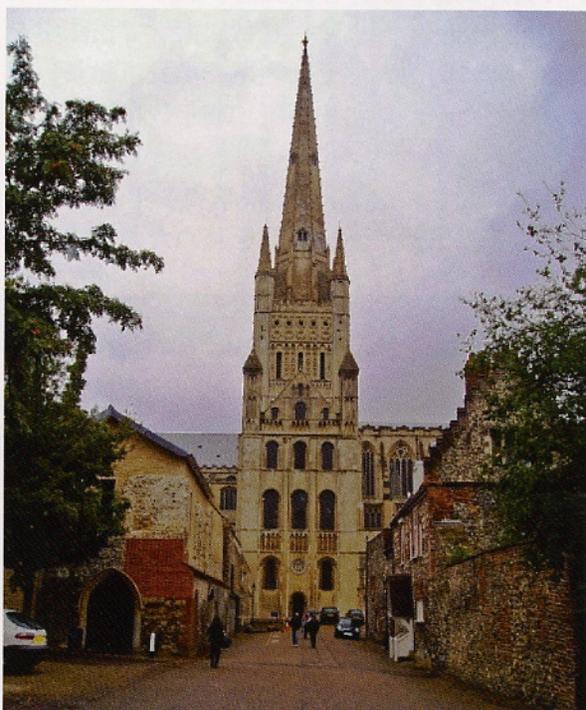


写真4 Norwich Cathedral (正面入り口付近)